

【 第二委員会 議事録 】

〔日 時〕：平成 14 年 3 月 7 日（木）

午後 14 時 30 分 ～ 午後 16 時 30 分

〔場 所〕：公立大学協会 会議室

〔出席者〕：北九州市立大学

青森公立大学

静岡県立大学

大分県立看護科学大学

田中 慎一郎委員長

加藤 勝康委員

廣部 雅昭委員

草間 朋子委員

公立大学協会

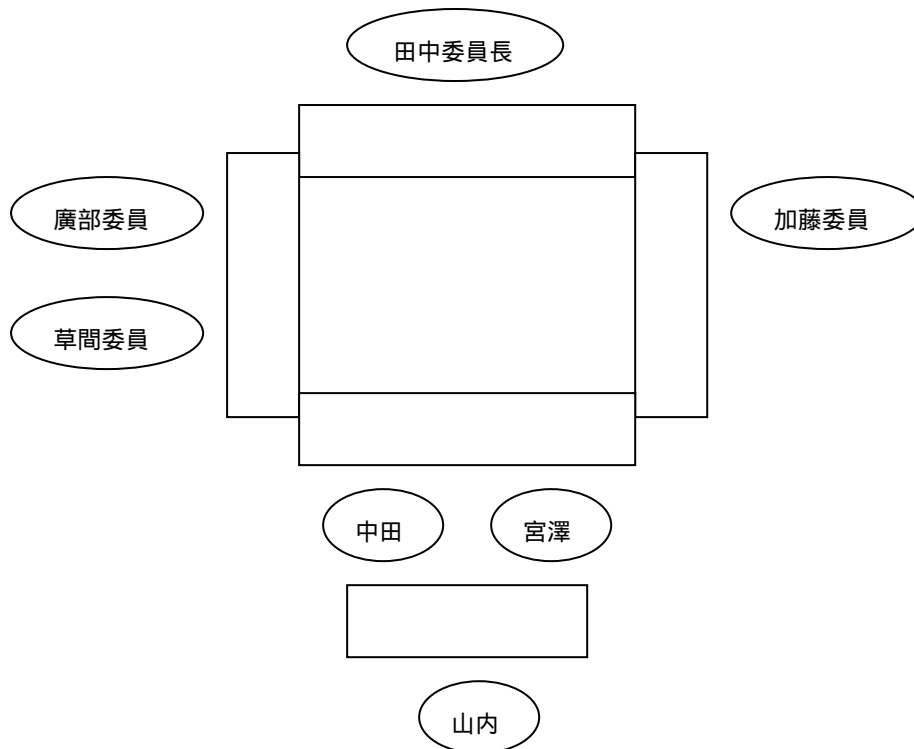
宮澤事務局長

中田事務局員

山内事務局員

〔欠席者〕：東京都立大学

荻上 紘一委員



〔議事次第〕

1. **第2委員会委員長あいさつ**

田中委員長：開会のあいさつがあった。

2. **会長あいさつ**

児玉会長：欠席のため、省略。

3. **入試専門委員会委員長あいさつ**

荻上委員：欠席のため、省略。

4. **報告事項**

(1) **21世紀に公立大学協会が目指す方向**

宮澤事務局長：資料「21世紀に公立大学協会が目指す方向」を参照しながら、公立大学に共通する課題と、今後、その課題に取り組むための特別委員会等の設置及び活動内容のスケジュールを報告。

(2) **公立大学協会規程集・役員等の名簿**

宮澤事務局長：資料「公立大学協会規程集」に基づき報告。

(3) **委員会の運営**

宮澤事務局長：(資料「公立大学協会の委員会運営」を参照しながら、)公立大学の発展のため、これまでの形式的な委員会運営を全面的に改め、各委員会が専門家集団として、責任を持って研究・開発課題に取り組んでいくこととなった。

5. **議題**

(1) **委員長の第2委員会運営の方針**

田中委員長：(資料「第2委員会の設置と活動方針(案)」に基づき、)当面の第2委員会の活動方針は、本委員会の調査・研究課題を明確にし、課題及び年次ごとの審議計画を平成14年5月総会に提示する運びである。

(2) **平成14年度第2委員会の研究・開発課題とまとめの方向**

第2委員会の研究・開発課題について、まず、資料「公立大学協会の委員会運営」(公立大学協会作成)に掲げる委員会担当事項を検討した。

田中委員長：「入試制度」は入試専門委員会に任せてはどうか、また、「研究」は教育とは違い、専門性の強い問題なので、個別に第3委員会で対応することとしてはどうか。

廣部委員 : 研究にも教育の一端を担う部分があるので、教育と研究は分離し
難しいのでは。

宮澤事務局長 : 「研究」は、第3委員会の担当事項となっているが、第3委員会の
設置が当分の間、見込まれないため、その間、第2委員会が担当して
ほしい。

委員全員 : 暫定的な担当事項とすることは差し支えない。
また、「入試制度」を入試専門委員会に任せることについては問題な
い。

田中委員長 : 資料「第2委員会の設置と活動方針(案)」に基づき、「公大協第2
委員会の調査研究課題(案)」を説明。

草間委員 : 公立大学に共通する課題という形での議論は難しい。編入学定員拡
大一つ例にとっても、賛否がある。第2委員会の総意 = 公大協の総意
ではない。

委員全員 : しかし、そこにこだわらず第2委員会としての議論は自由活発に行
うべきであろう。

草間委員 : 課題は、より実践的なものにするべきか否か。

委員全員 : より実践的、具体的な課題にしていくべきである。また、課題は、公
立大学に特有の課題を設定すべきである。

廣部委員 : 教員が「教授法」を学んでいないことが問題となっている。公大協で
若手教員の研修会を行うことを考えてはどうか。

草間委員 : 看護科では、コミュニケーションの専門家などがいてフォローできて
いるが、そのような専門家が必要になってきている。

加藤委員 : 大学の大量化にともなう、学力低下などの問題にどう取り組むか。青
森公立大学では、かなりの数の学生を退学させている。それについて
は、学生・父兄と十分なコンセンサスをつくっているのでトラブルは
ない。授業もシラバスの提示を義務づけている。教員の学生による評
価もしている。

田中委員長 : 青森公立大学の例は、北九州市立大学も参考にしており、公大協とし
てもモデルとして研究する価値がある。

草間委員 : 大分県立看護科学大学では、国立が上でその下に公立があるというよ
うな意識を変革すべく「競争」の意識をもって取り組んでいる。統合
されるのなら、こちらに統合されるよう、戦略をたててやっている。
県立高校への働きかけを行った結果、受験生の質・量が目に見える形
で向上した。同じ県立同士、高校と大学での連携をもっと考えていく
べき。

廣部委員：静岡では、国立・公立間で、専門が競合しないように学部をつくってある。そのような工夫が必要であろう。

田中委員長：教育のプログラムが職業選択に結びつく形になっていない。インターンシップのような新しい取り組みに押し付けてしまっている形になっている場合もある。

宮澤事務局長：多様化する学生、生活、進路などを追究しつつ、学生サービス対策を課題として研究・開発してはどうか。

加藤委員：必要なことと思う。

草間委員：地区協議会での協議内容も踏まえ、本委員会の研究・開発課題は、よりテクニカルな課題にするべきであろう。

研究・開発課題の検討スケジュールについて、

加藤委員：平成14年5月の総会には、課題のみを提示すればよく、それまでに審議する必要はないのか。

田中委員長：課題を提示するのみでなく、それまでに審議検討も進め、中間報告を行うべきではないか。

委員全員：その方向で進めていくべきである。

具体的な研究・開発課題については、各委員が約10日以内に田中委員長に意見をメールし、田中委員長がそれらを汲み上げながら決めることにした。

(3) 入試専門委員会の設置と今後の活動

宮澤事務局長：(資料「公立大学の入試関係業務」を参照しながら、)業務内容と、業務に関わる調査・研究は、入試専門委員会、東京都立大学入試課及び公立大学協会事務局の協力体制で行うこととなる。また、4月早々、第1回入試専門委員会で研究・開発課題を設定し、検討する予定である。

草間委員：大型計算機能のある電子機器を持っていない大学でも、大学入試センターとのやり取りを容易に行える方法の検討を研究・開発課題に入れて欲しい。

(4) その他

各委員及び事務局間の情報・意見交換を、メール等にて積極的に行っていくことを全員で確認した。